

## コミュニティバスの運行費用削減方法

方法	運行方法	運行日	便数	使用車両	運行費用の削減効果
基本形（現状）	路線定期運行	毎日	基本形	15人乗り 小型バス	
(1) 便数の削減	路線定期運行	毎日	利用の少ない 時間帯の減便	15人乗り 小型バス	・燃料費が削減される ・人件費は条件による
	<p>◆運行形態＝コミュニティバス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両は門前線・萩の台線と同様の小型バス。</li> <li>・路線とダイヤを定め、時刻表通りに運行する。</li> <li>・燃料費は距離×燃料消費率（燃費）×ガソリン代が節減される。 （往復5kmの路線を1便削減し、燃費7km/1、ガソリン120円/1として年間2万円程度）</li> <li>・人件費は運行会社の勤務形態や給与体系による。 （始業～終業の時間が変わらないと大きな削減にはならない場合がある）</li> </ul>				
(2) 車両の小型化	路線定期運行	毎日	基本形	8人乗り ワゴン車	・車両費が節減できる ・人件費は大きく変わらない
	<p>◆運行形態＝コミュニティバス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両は北新町線・西畑線と同様の小型ワゴン車。</li> <li>・路線とダイヤを定め、時刻表通りに運行する。</li> <li>・車両購入費用の初期投資が安価になる。（2～300万円程度）</li> <li>・燃料費は燃費が良くなる分安価になる。（往復5kmの路線を10便運行し、燃費が7→8km/1に改善されるとして年間2～3万円程度）</li> </ul>				
(3) 運行日の削減 ＋車両の小型化	路線定期運行	木曜運休 週3日等	基本形	8人乗り ワゴン車	・人件費・燃料費等が節減できる ・曜日により買い物・通院等への影響は小さくできる
	<p>◆運行形態＝コミュニティバス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両は北新町線・西畑線と同様の小型ワゴン車。</li> <li>・路線とダイヤを定め、時刻表通りに運行する。</li> <li>・ただし、毎日運行ではなく、利用者の少ない日は運休して経費を節減する。 （利用が少ない路線であるため、小型車両が適切な場合が多い）</li> <li>・人件費は出勤日数が減少するため、それに応じて削減される（数十万円規模）</li> <li>・燃料費は運行日数が減少する分安価になる。（往復5kmの路線を10便運行し、週1日運行日数が減ることにより年間4万円程度）</li> </ul>				

方法	運行方法	運行日	便数	使用車両	運行費用の削減効果
(4) 事前予約制＋ 車両の小型化①	路線運行 ・予約制	毎日	設定は基本形 運行は予約のみ	8人乗り ワゴン車	・燃料費が削減される ・人件費は大きく変わらない
<p>◆運行形態＝コミュニティバス（デマンド方式、または事前予約方式）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両は北新町線・西畑線と同様の小型ワゴン車。</li> <li>・路線とダイヤを定めて運行する。</li> <li>・ただし、事前に予約のある便のみを運行し、利用が0の便の運行をしない。それによって「空」の運行を避け無駄な経費をかけないようにする。</li> <li>・1日を通じて、1便に5人以上の利用が見込まれる便がある場合は、小型ワゴン車の利用が適切である。</li> <li>・事前予約制には、利用の度に電話等で予約する必要があるが、利用者や乗車場所が事前にわかるため、バス停以外の場所（たとえば自宅など）で乗降できるサービスを提供できるメリットもある。</li> <li>・人件費は運行しない便も待機が必要なためあまり変わらないと考えられる。</li> <li>・燃料費は、運行しない便の分だけ節減される。（往復5kmの便が1日1便運行しないことになるとして、年間2万円程度）</li> </ul>					

(5) 事前予約制＋ 車両の小型化②	路線運行 ・予約制	毎日	設定は基本形 運行は予約のみ	5人乗り セダン	・一般タクシーの間合いに運行することで運行費用を大幅に削減できる
<p>◆運行形態＝乗合タクシー（デマンド方式、または事前予約方式）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両は一般のタクシー車両（セダン型）。</li> <li>・路線とダイヤを定めて運行する。</li> <li>・ただし、事前に予約のある便のみを運行し、利用が0の便の運行をしない。それによって「空」の運行を避け無駄な経費をかけないようにする。</li> <li>・1日を通じて、1便に4人以下の利用しか見込めない場合は、一般タクシー車両を利用できれば、費用の大幅な削減が期待される。 すなわち、同じ車両が一般タクシーと共通で利用できれば、走った回数・走った距離だけの費用で運行することができる。</li> <li>・事前予約制には、利用の度に電話等で予約する必要があるが、利用者や乗車場所が事前にわかるため、バス停以外の場所（たとえば自宅など）で乗降できるサービスを提供できるメリットもある。</li> <li>・セダン型の車両であれば、ワゴン車よりも狭い道路などにも運行できるメリットもある。</li> <li>・運行費用は1回運行当たりの費用精算ができれば、大幅な削減が期待される。（1日5回運行し、1回当たり時間貸し運賃で運行できれば、年間の運行費用は287万円程度（5回×2360円×243日）、現在のたけまるは1路線600万円超）</li> </ul>					

方法	運行方法	運行日	便数	使用車両	運行費用の削減効果
(6) 事前予約制＋車両の小型化③	区域運行 ・予約制	毎日	設定は基本形 運行は予約のみ	8人乗り 5人乗り	・利便性は向上するが、運行回数が増えるため費用削減はケースバイケース
	<p>◆運行形態＝乗合タクシー（デマンド方式、または事前予約方式）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両は小型ワゴン車または一般のタクシー車両（セダン型）。</li> <li>・ダイヤは定めて運行する。</li> <li>・路線は定めず、一定の区域内ならどこでも乗降できる。</li> <li>・どこでも乗降できるためには、乗車場所をあらかじめ知らせる必要があり、事前予約制は必須となる。</li> <li>・車両の大きさは、利用者に応じて小型ワゴン車か一般タクシー車両が適切と考えられる。</li> <li>・なお、小型バスが必要なくらいの利用がある場合は、複数の車両を用いることとなる。デマンド方式ではなく、路線運行の方が効率がよい場合もある。</li> <li>・運行費用は1回運行当たりの費用精算ができれば、コミュニティバスより安価になることが期待される。</li> </ul> <p>（1日5回運行し、1回当たり時間貸し運賃で運行できれば、年間の運行費用は287万円程度（5回×2360円×243日））</p>				

(7) 一般タクシーの活用	タクシー 運賃助成	毎日	随時	5人乗り セダン	・乗合交通では費用が掛かり過ぎる場合の対処方法
	<p>◆運行形態＝一般タクシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗合交通の運行はやめ、一般のタクシーを利用する。</li> <li>・タクシーの運賃の一部を市が助成する。</li> <li>・対象者や利用回数は目的に応じて限定・制限する。</li> <li>・対象者や利用回数などを適切に設定すれば、少ない費用で公共交通を必要とする人の移動が確保できる。</li> <li>・費用は、利用者数や助成額により様々である。（仮に対象者が100人、年間24枚、初乗り運賃を助成として、100人×24回×640円＝153万円程度）</li> </ul>				

(8) 上記の組合せ					
	<p>◆運行形態＝コミュニティバス、乗合タクシーなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前予約制＋車両の小型化＋便数の削減、事前予約制＋車両の小型化＋運行日の削減など、組み合わせにより費用のより一層の削減を目指す。</li> </ul>				